

リスク分散 続く道内進出

大震災後 3年連続10企業超

札幌市	
IBS(東京)本社機能の移転	
東邦薬品(東京)コールセンター開設	
アクサ生命保険(東京)本社機能の移転	
	
旭川市	
プーリカ(東京)オペレーションセンター開設	
北広島市	
ユニシス(東京)工場を新設	

(道の資料を基に作成)

2013年度に道内進出を
決めた主な企業

東日本大震災から間もなく3年。地震など自然災害リスクを分散するため、道外企業が道内に新たに拠点を設けたり、工場を増強したりする動きが続いている。道のまとめでは、2013年度は昨年末時点で、製造業やサービス業など15社が進出や新たな設備投資を表明し、12年度の18社に迫る勢いだ。(関連記事13面)

道産業振興課によると、15社の内訳は新規立地が5社、既存の工場などの拡充が5社。残る5社はセキュリティー確保を理由に立地内容を公表していない。

津波警戒 内陸部に用地も

一方、大震災の被災企業が生産拠点を道内へ移すケースは11年度5件、12年度は1件だった。しかし、本年度は東北地方の復興が進んだため動きはなく、初めてゼロになる見通し。

12年度18社で、本年度も同水準の見込み。ただ、北海道電力が料金再値上げの検討を表明するなどマイナス材料が浮上し、九州や沖縄も誘致攻勢を強める。道や各自治体は台風の少なさや人材確保の容易さをアピールし、企業への売り込みを続ける構えだ。

道や札幌市が誘致したアクサ生命保険(東京)は昨秋、本社機能の一部を今年11月に札幌市中心部へ移転すると発表した。400人が常駐し、東京で災害が起きても保険金の支払いが滞らない体制を整える。

麻酔用など特殊針製造の国内最大手、ユニシス(東京)は北広島市に工場建設を決めた。地震が少ないとされる道内でも、とりわけ津波の影響が及びにくい内陸部に用地を求めた。工場は来年1月にも稼働する。

道内への立地表明は11年度16社、12年度18社で、本年度も同水準の見込み。ただ、北海道電力が料金再値上げの検討を表明するなどマイナス材料が浮上し、九州や沖縄も誘致攻勢を強める。道や各自治体は台風の少なさや人材確保の容易さをアピールし、企業への売り込みを続ける構えだ。